都道府県別賞一等

もしものときに支えるもの

熊本県　菊池市立泗水中学校　三学年

坂井　絢音

私は今まで、生命保険についてほとんど考えたことがありませんでした。テレビのコマーシャルで生命保険という言葉を聞くことがあっても、それは大人になってから考えるもので、中学生の自分にはあまり関係がないと思っていました。しかし、家族と話をしているときに生命保険の話が出て、少し興味を持ちました。

生命保険は、家族の誰かが亡くなったり、病気になったりしたときに、遺された家族の生活を支えるためのものだと知りました。最初は『お金をもらっても、亡くなった人が帰ってくるわけではないのに。』と思いました。確かに、どれだけお金があっても、大切な人を失った悲しみをなくすことはできません。でも、『もし家族の中で働いている人が突然亡くなったらどうなるのだろう。』と考えてみました。毎日の食事にもお金がかかります。電気代や水道代も必要です。

そこで私は、生命保険は亡くなった人の代わりになるものではなく、遺された家族の生活や未来を守るためのものなのだと気づきました。また、生命保険には多くの人が少しずつお金を出し合い、その中で困った人を支えるという考え方がある、とも知りました。保険に入っていても、何事もなく元気に生活できる人もいます。その人が払ったお金が、病気になった人や家族を亡くした人を支えることにつながります。

私は、その仕組みは、どこか人と人との助け合いに似ていると思いました。私たちは一人だけで生きているように思っていても、実際にはたくさんの人に支えられています。学校でも、困ったときには友達や先生に助けてもらうことがあります。反対に、友達が困っていれば、自分が助けることもあります。生命保険も形は違いますが、「困ったときはお互いに支え合う」という考え方からできているのだと思いました。

そして、生命保険について考えたことで、私は家族についても考えるようになりました。毎日学校に行き、食事をして、安心して眠ることができる生活を、私は今まで当たり前だと思っていました。しかし、その生活は家族が働き、私たちを支えてくれているから成り立っています。普段はそんなことを意識することはありません。「行ってきます。」と言って学校に行き、「ただいま。」と言って家に帰る。それを毎日繰り返しています。でも、その当たり前の一日が、ずっと続くとは限りません。

だからといって、いつも『もし家族に何かあったら……。』と心配しながら生活する必要はないと思います。もしものことが起きたときに備えておくことで、むしろ安心して毎日の生活を送ることができるのではないでしょうか。私はまだ中学生なので、自分で生命保険に入ることを考える年齢ではありません。しかし今回生命保険について考えたことで、保険は単にお金のためだけにあるのではなく、大切な人のこれからを守るための一つの方法なのだと知りました。いつか私も大人になり、家族を持つかもしれません。そのときには、自分のことだけではなく、大切な人の将来についても考えられる大人になりたいです。そして今は、家族と一緒に過ごせる毎日を当たり前だと思わず、大切にしていきたいと思います。